



三年 組 名前

文学的文章「握手」 作者 井上ひさし

教科書P18～29

○登場人物の置かれた状況や言動に着目して、人物像を捉える。

○登場人物の生き方や考え方を捉え、人間や社会について自分の意見をもつ。

1 教科書本文を読んで、人物どうしの関係や置かれた状況を確認して
まとめてみよう。

① 「ルロイ修道士」と「わたし」はどのような設定や関係か確認しよう。

例 ルロイ修道士…光ヶ丘天使園という児童養護施設の元園長。

わたし………中学校三年の秋から高校卒業まで天使園で過ごした教え子。

② ルロイ修道士は、かつての園児たちに会って回っている理由をなんと説明しているか確認しよう。

例 故郷のカナダに帰るので、教え子に別れの挨拶を言うため。

③ ルロイ修道士の手や指の動きが何を意味しているか確認しよう。

・右の人さし指をぴんと立てる。(P21 L17)

例 「こら。」「よく聞きなさい。」「

・右の親指をぴんと立てる。(P22 L5)

例 「わかった。」「よし。」「最高だ。」「

・両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつける。(P23 L1)

例 「お前は悪い子だ。」「とどなっている。

・右の人さし指に中指をからめて掲げる。(P26 L9)

例 「幸運を祈る。」「しっかりとやり。」「

② 登場人物の言動（会話や行動）に着目して、それぞれの人物像を捉え、作品に対する読みを深めよう。

① 次のような「ルロイ修道士」の言動から、どのような人物なのかを考えて、まとめてみよう。

・「園長でありながら、…子供たちの食料を作ることに精を出していた」(P 20 L 8)

・「総理大臣のようなことを言っただけではありませんよ。…それだけのことから。」(P 21 L 20)

・「上川君はいけない運転手です。…わたしにはいっとう楽しいですね。」(P 25 L 19)

① 肩書や対面にこだわらず、子供たちを第一に思う人物。

① 人に対して、差別や偏見をもたず、一人一人を大切にできる人物。

① 卒業していった園児の行く末まで心配するお父さんのような人物。

② 「わたし」と「ルロイ修道士」との間で交わされた三回の握手に込められた思いについて、まとめてみよう。

・天使園に来た「わたし」にしてくれた握手には、どのような思いが込められているのだろう。

① 「何の心配もいりませんよ。」と、初めて天使園にきた「わたし」を安心させたい思いが込められている。

・ルロイ修道士と再会したときにした握手から、「わたし」が感じたことはどんなことだろう。

① 病人の手でも握るような穏やかな握手だったと、違和感を覚えたと、後には、それは病気のためではないかと感じた。

・「わたし」がルロイ修道士と別れるときにした握手にはどのような思いが込められているのだろう。

① 最後の挨拶であるという別れの思い、ルロイ修道士の教えを受け継いでいるという証の思いが込められている。

③

「ルロイ修道士」の生き方や考え方を捉え、自分の考えをもとう。

①

「ルロイ修道士」の言葉や表現の中から、印象に残ったものを抜き出し、その言葉を選んだ理由をまとめてみよう。

【印象に残った言葉や表現】

◎

「そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

【その言葉を選んだ理由】

◎

ルロイ修道士は、「わたし」が天使園にいたときからずっと変わらず子供
 思いで「先生」としての立場を貫いていて、すごいと思ったから。

②

「ルロイ修道士」の人物像やその描かれ方などから、この作品のよさ
 や特徴について、120字程度でまとめてみよう。

て	温	イ	に	い	ル	「	◎
、	か	修	あ	が	ロ	手	こ
そ	い	導	る	表	イ	」	の
こ	心	士	「	現	修	の	作
に	の	と	握	さ	導	描	品
作	触	わ	手	れ	士	写	は
品	れ	た	」	て	の	が	、
の	合	し	の	い	人	多	握
魅	い	の	場	る	柄	く	手
力	が	お	面	。	や	、	や
が	描	互	に	特	わ	そ	指
あ	か	い	は	に	た	の	言
る	れ	を	、	、	し	描	葉
。	て	思	ル	題	の	写	な
	い	う	ロ	名	思	に	ど

↑上P29「学習の窓」をヒントにして書きましよう。

4

作品の中に出てくる、次の言葉の意味を国語辞書で調べましょう。

■ 達者

《意味》

①物事に熟達しているさま。

■ 年季が入る

《意味》

①長年練習を積んだ腕前。

■ 気前がいい

《意味》

①金銭・物品などを惜しまずに使う気性。

■ 奇妙

《意味》

①常識では考えられない不思議なこと。

■ こたえる

《意味》

①我慢しとおす。こらえる。「最後まで持ち——」

■ 地道

《意味》

①手堅く、着実なさま。

■ いとまごい

《意味》

①別れを告げること。

■ 腕前

《関連》

腕が立つ ・ 腕によりをかける ・ 腕を振るう

5 作品の中に出てくる、次の言葉を使って例文を作りましょう。

■ 精を出す

《例文》 仕事に精を出す。(熱心に行う)

■ …(の)

わりに 《例文》 経験者と言うわりに、あまり上手ではない。(思ったより)

■ せわしい

《例文》 《例文》 せわしい日々を過ごす。(いそがしい)

■ むやみに

《例文》 《例文》 今年の夏は、むやみに暑い。(度を越していること)

6 作品の中に出てくる、次の漢字を書きましよう。

爪 つめ	鶏 ケイ	穂 おだ	代 しろ	洗 セン
	舎 シャ	やか	物 もの	濯 タク
泥 どろ				場
	傲 ゴウ	大日本	監 カン	開 カイ
搜 さが	慢 マン	帝 テイ	督 トク	墾 コン
す		国 コク		
一				
周 シュウ	姓 セイ	遺 ユイ	冗 ジョウ	分 ブン
忌 キ	名 メイ	言 ゴン	談 ダン	割 カツ